

「十和田湖畔に和井内貞行の銅像を建てる会」設立趣旨

本年令和4(2022)年は、十和田湖ひめます養魚を成功させ、十和田湖の観光宣伝・国立公園認定に尽力し、「十和田湖開発の父」と称される和井内貞行翁の没後100周年の節目の年にあたります。そして翌令和5(2023)年には、翁ゆかりの十和田湖和井内エリアに「道の駅」が開設されます。これを機に、小坂町の協力を得ながら、和井内貞行翁の偉業を称え、銅像(モニュメント)を建設することを目的に、「十和田湖畔に和井内貞行の銅像を建てる会」を立ち上げました。

なお、家財を傾け辛酸をなめ尽力したカツ夫人の像も建設いたしたく計画しております。因みに夫妻が合祀されている「和井内神社」は、もとはカツ夫人の苦労続きの人生を悼み、その温情に感謝し、湖畔住民と貞行翁が「勝漁社」としてカツ夫人の御霊を祀ったものであります。

当会といたしましては、和井内貞行夫妻の偉業を後世に伝えると共に、改めて十和田湖観光の発展を願い、この銅像を建設するものであります。苦楽をともにした夫婦愛が感じられ、これからの時代にふさわしい、皆さんに親しんでいただける銅像にしたいものと計画しております。

しかし、銅像の建設場所の整地や製作者への依頼、立像鑄造、解説板の制作、取付工事費等、銅像建設には、相当額の資金が必要になります。

つきましては、銅像建設全般に関わる資金調達のため、寄付金募集活動を行いたいと思います。出費の厳しい時節と拝察いたし、誠に恐縮ではございますが、趣旨にご賛同いただき、格別のご支援、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和4年4月3日設立

「十和田湖畔に和井内貞行の銅像を建てる会」

会 長 宮 信